

平成 27 年度

事 業 報 告 書

自平成 27 年 4 月 1 日 至平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人中近東文化センター

平成 27 年度事業報告

I. 総務関係

1. 彬子女王殿下の総裁ご就任

4月1日付で、三笠宮家の彬子女王殿下が中近東文化センターの総裁に就任された。10月27日には同殿下の総裁推戴の会合を開催した。

2. 評議員会・理事会

(1)平成27年6月4日 中近東文化センター役員室に於いて第1回理事会を開催し、次の議案を採択の上、審議・了承を得た。

- ① 平成26年度事業報告及び決算について(承認)
- ② 中近東文化センターの現在の状況について(説明)
- ③ JKA補助金交付申請のための決議書について(承認)

(2)平成27年6月22日 中近東文化センター役員室に於いて第1回評議員会を開催し、次の議案を採択の上、審議・了承を得た。

- ① 平成26年度事業報告及び決算について(承認)
- ② 中近東文化センターの現在の状況について(説明)

(3)平成28年2月12日 中近東文化センター役員会議室に於いて第2回理事会を開催し、次の議案を採択の上、審議し、了承を得た。

- ① 平成27年度収支見込み及び平成28年度収支計画について(承認)
- ② 平成28年度事業計画について(承認)

(4)平成28年3月11日 中近東文化センター役員会議室に於いて第2回評議員会を開催し、次の議案を採択の上、審議・了承を得た。

- ① 平成27年度収支見込み及び平成28年度収支計画について(承認)
- ② 平成28年度事業計画について(承認)
- ③ 評議員の選任について(承認)
- ④ 監事の選任について(承認)

3. 寄付金・助成金等の受け入れ

(1)寄付金

出光興産株式会社

(2)助成金

独立行政法人 日本学術振興会(下記Ⅱ.1.(1)、(2)に充当)

公益財団法人 JKA(下記Ⅱ及びⅣ.(1)、(2)、(3)に充当)
公益財団法人 出光文化福祉財団
公益財団法人 住友財団(下記Ⅱに充当)

三鷹市
武蔵野市
小金井市

Ⅱ. 中近東文化に関する調査研究

1. 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

(1) 第30次カマン・カレホユック発掘調査(平成27年)

第30次カマン・カレホユック発掘調査は、6月28日から9月5日にかけて行った。北区では、例年通り『文化編年の構築』、また、南区では、『鉄器時代の集落形態』をテーマとして調査を進めた。北区の『文化編年の構築』では、Ⅲ～Ⅷ区を中心に掘り下げを行い、特に、北区の前期青銅器時代の建築層がほぼ明らかとなったことは、今シーズンの成果の一つとしてあげることができよう。現在、建築層に合わせて出土遺物の整理を行っている。南区では、重層した形で初期鉄器時代から後期青銅器時代の層序が明らかとなり、現在、北区同様、建築層に合わせて出土遺物整理を進めている。

(2) 第7次ヤッサホユック発掘調査(平成27年)

第7次ヤッサホユック発掘調査は、8月31日に開始し11月5日まで行った。今シーズンは、第Ⅰ層の鉄器時代の建築遺構、第Ⅱ層の前期青銅器時代の宮殿址を中心とする発掘調査に重点を置いた。今回の調査で明確になったこととして、前期青銅器時代には遺丘の中央部が小高い丘状になっており、宮殿が建設時には独立した形で存在していた可能性が高いこと、鉄器時代の建築が構築される際に、その直下に位置する宮殿址を破壊していることが明らかとなった。鉄器時代の建築遺構の床面からは、未焼成の紡錘車、錘が大量に検出されている。この類の土製品はカマン・カレホユックⅡd層、つまり前期鉄器時代の建築遺構内からも大量にまとまった形で出土しており、今回出土した建築遺構の年代付けを考える上で一つのヒントになり得ると考えている。

(3) 第7次ビュクリュカレ発掘調査(平成27年)

第7次ビュクリュカレ発掘調査は、4月27日に開始し6月中旬まで行っ

た。これまでの調査で確認されているヒッタイトの火災層が北側へ延びており、今シーズンはそのヒッタイトの火災層を追う形で発掘調査を進めた。火災層の東、北側には、後期鉄器時代に年代付けられる城塞を確認している。ヒッタイトの火災層は、その城塞下に潜り込んだ形をとっている。又、後期鉄器時代の出土遺物を観察すると、リュディア、アケメネス朝ペルシャの影響を受けていることは明らかである。

(4) クルシェヒル、ヨズガット県の遺跡踏査(平成 27 年)

クルシェヒル、ユズガット県の遺跡踏査を、11月6日から11月18日にかけて行った。今回は、クルシェヒル県のチチェッキダウ、アクチャケント郡、ヨズガット県のメルケズ、イェルキョイ郡で24遺跡の踏査を行った。特に、両県を東西に流れているデリジェ川流域に点在している遺丘の調査を行ったが、前期青銅器時代第四四半期に年代付けられる彩文土器を数多く確認することができた。この彩文土器は、これまでの遺跡踏査でデリジェ川流域に集中していることが明らかとなり、前期青銅器時代、デリジェ川流域に一つの土器文化圏の存在を示唆している。

Ⅲ. 中近東に関する資料の収集、保管、展示及び研究者への資料提供

1. 中近東文化センター附属博物館

(1) 展示活動

これまでの展示の骨格を維持するとともに、名誉総裁・三笠宮殿下が百歳を迎えられたことを記念して、昨年来行っていた「白寿記念展示」を一層充実させて「百寿記念展示」として公開した。また、出光美術館の名品展示も継続させた。希望者等の入館を認める形で活動を継続したところ、来館者数は以下のとおりであった。

4月	107名	5月	74名	6月	70名
7月	44名	8月	534名	9月	26名
10月	101名	11月	170名	12月	179名
1月	9名	2月	65名	3月	125名

(2) 収蔵品の目録等の整備

収蔵品目録の記載方法がマチマチであったのを統一すべく、コンピューター登録及び写真の整備を進めた。

2. 三笠宮記念図書館

(1) 閲覧等

蔵書の閲覧等を希望する者に対して、可能な限りの便宜を図ることとして対応した。

来館者数は以下のとおりであった。

4月	3名	5月	5名	6月	2名
7月	2名	8月	3名	9月	1名
10月	0名	11月	2名	12月	0名
1月	1名	2月	0名	3月	2名

IV. 中近東に関する研究会、公開講座、広報

(1) 平成 27 年度トルコ調査報告会・第 26 回トルコ調査研究会

平成 27 年度トルコ調査報告会、第 25 回トルコ調査研究会は、学習院創立百周年記念会館で、平成 28 年 2 月 28 日(日)、29 日(月)の二日間に渡って行われた。

(2) アナトリア学勉強会

- ① 第 225 回 平成 27 年 4 月 12 日(日) 佐久間 保彦(東京大学)、「ヒッタイトの鳥占い」。参加者：31 名
- ② 第 226 回 平成 27 年 5 月 10 日(日) 津本 英利(古代オリエント博物館研究員)、「ミダス・シティ出土金属器の調査」。参加者：24 名
- ③ 第 227 回 平成 27 年 7 月 24 日(金) 水田 徹(東京学芸大学名誉教授)、「造形様式論—古代ギリシアの場合」。参加者：20 名
- ④ 第 228 回 平成 27 年 12 月 6 日(日) 大村 幸弘(中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所所長)「クルシェヒル、ヨズガット県遺跡踏査」。参加者：29 名
- ⑤ 第 229 回 平成 28 年 1 月 23 日(土) 山本 孟(京都大学文学部非常勤講師)「ヒッタイト語にみる条約締結の意義—動詞 *išhai-*/*išhiya-*と名詞 *išhiul-*の語用分析—」参加者：24 名
- ⑥ 第 230 回 平成 28 年 2 月 27 日(土) 土井 通正「紀元前十三世紀後半以降のエーゲ海—絵付き土器の観察から」参加者：19 名
- ⑦ 第 231 回 平成 28 年 3 月 25 日(金) 土井 通正「紀元前 13 世紀から前 12 世紀初頭の絵付きミケーネ土器の観察から」参加者：23 名

(3) 考古学フィールドコース

考古学フィールドコースは平成 27 年 8 月 2 日～15 日まで行われた。札幌学院大学、中央大学、駒沢大学、明治大学から 6 名の学生が参加

し、初めに「アナトリア考古学概論」の授業を行い、その後カマン・カレホユック遺跡の発掘調査現場で実地研修が行われた。8月9日には、A.シャフナー隊長の案内で、世界遺産にも登録されているボアズキョイ(古代名ハットウシヤ)の見学会を行った。最終日の15日には、全員が遺物研究の発表を行い、コースを終了した。

(4)博物館学フィールドコース

アナトリア考古学研究所は、国際交流基金、トルコの文化・観光省と共催で博物館学フィールドコース(2015年)を今シーズンも行った。第一回目(9月29日～10月3日)は、ネヴシェヒル、アンタルヤ、アンカラ、トラブゾン、ガズィアンテップ、ディアルバクル、イズミル地方保存修復センター、アイトウン、エディルネ考古学博物館から、第二回目(10月5日～10月9日)は、ネヴシェヒル、ブルサ、アンタルヤ、エルズルム、トラブゾン、ガズィアンテップ、ディアルバクル、イズミルの保存修復センターから保存、修復の若手専門家が参加した。このフィールドコースは、アナトリア考古学研究所の保存・修復室などをフルに活用しながらの研修で、多くの参加者からもう一度是非参加したいとの声があがっていた。各最終日には、教会の壁画の修復、保存がどのようになされているか、また、ネブシェヒルで新たに行われているギョレメと同様の教会等の調査を見学するためにカッパドキアでの研修を行った。

(5)植物考古学フィールドコース

植物考古学フィールドコースは、7月8日から11日まで行われた。オーストラリア・クィーンズランド大学のR.フェンウィックが講師となり、3名の欧米の学生が参加した。

(6)公開講座

①親子体験講座

武蔵野市とタイアップして、8月8日及び9日の両日、親子体験講座として、博物館見学と焼き物の絵付けを実施した。参加者は、8日が20名、9日が22名であった。

②小金井市中近東歴史文化講座

小金井市とタイアップして、2月17日、3月2日及び9日の3回にわたり、「古代メソポタミアへの誘い」とのテーマで講義及び博物館見学の講座を実施した。参加者は、2月17日が25名、3月2日

が 24 名、9 日が 19 名であった。

③ 武蔵野市古代史講座

武蔵野市とタイアップして、11月13日、27日及び12月4日の3回にわたって、「古代メソポタミアへの誘い」とのテーマで講義を実施した。参加者は、11月13日が56名、27日が60名、12月4日が54名であった。

(7) 地元自治体と提携しての活動

上記(6)の公開講座の他、8月24日から30日まで武蔵野市とタイアップして特別開館を行い、武蔵野市から134名の来館者があった。また、8月19日から23日まで三鷹市とタイアップした特別開館を行い、三鷹市から222名の来館者を得た。

(8) 研究成果等の刊行

アナトリア考古学研究 XIX 号

(9) 国際基督教大学祭への参加

10月24、25日の両日開かれた国際基督教大学の学園祭に、当センターも参加して、講演会講師を派遣した。

(10) 新公益財団法人活動の広報

博物館及び図書館への来訪希望者や関心を寄せる方々への便宜を考慮して、ホームページの大幅な改編を行った。

V. その他事業

(1) 見学等の受け入れ

三鷹市立第六中学校	9月29日
放送大学神奈川学習センター	10月14日
日経カルチャーセンター	12月8日
早稲田大学エクステンションセンター	12月15日

(2) 職場訪問

三鷹市立井口小学校	2月18日
三鷹市立第二小学校	2月19日

(3) 視覚障がい者の受入れ

6月10日、7月14日に、東京神学大学の視覚障がい者の博物館見学を受入れ、展示品の理解等のサポートを行った。